

## ホタルに会うために

毎年6月頃になると、博物館には、「ホタルはどこに行けば見られるの？」という問合せがたくさんあります。「今夜見に行ける場所を教えてください」という要望も少なくありません。申しわけありませんが、博物館では「ここに行けば見られます」という情報はお知らせしていません。そのかわり、どうすればホタルに会えるか、ご説明しています。ホタルはれっきとした野生生物ですから、花火を見に行くようなわけにはいきません。しかし、少しコツを知っていれば、ホタルに会うことはそんなに難しいことではありません。

### 鉄則1・・・明るいうちに現地に行く

明るいうちに現地に行くことが、ホタル観察の鉄則です。

ホタルは、みなさんが想像しているほど珍しい昆虫ではありません。とくに、ゲンジボタルは、すんでいる環境もわかりやすく、昆虫の中でも、見つけやすい方です。しかし、多くの人は、暗くなってから、自動車に乗って、ホタルを見に行こうとします。暗くなってからでは、そこがホタルのいそうな環境なのか、わかりません。また、自動車に乗っていると、ホタルのかすかな光には気づかないでしょう。

### 鉄則2・・・歩く

現地に着いても、車の窓からのぞいているだけでは、何もわかりません。少なくとも10分以上、現地を歩きましょう。ゆっくり歩くことで、いろんなものが見え、感じられるでしょう。生えている植物、川岸や河底のようす、まわりに生えている植物、鳥や虫、これらは、ホタルの生息環境を知る上でたいへん重要な情報です。私たちは、実際に感じたことは、驚くほどよく覚えているものです。このようなフィールド経験の積み重ねが、ホタルをよく知ることに繋がります。

### 鉄則3・・・地図を読む

山、川、田んぼが一堂所にそろっているところ。これがホタルのいるところです。多くの昆虫と同じで、ホタルは、雑木林も田んぼもなような市街地にはすめません。しかし、少し郊外に出れば、ほとん



コンクリート張りの水路にも、ゲンジボタルはすんでいます(三田市)

どすべての川にゲンジボタルはすんでいます。地図を広げ、山が迫っていて、まわりに田んぼがあるようなところをさがします。出かける前に、あらかじめ計画を立てておきましょう。

### 鉄則4・・・マナーを守る

ホタルは人里の昆虫です。何より重要なことは、観察のマナーです。私有地に無断で立ち入る、ゴミを捨てる、大声で騒ぐ、あたり構わず懐中電灯を向ける、などなど、そこで暮らしている方の迷惑にならないよう、マナーを守りましょう。

### 季節、時刻、天候

ゲンジボタルは、6月頃に多く見られますが、地域によって発生時期が異なります。暖かい地方では5月中旬から、寒いところでは7月下旬まで見られます。何度か足を運んで、いつ頃に多く見られるのか調べてみるのもよいでしょう。ホタルは多くの場合、日没から30分ほど経過し、あたりが暗くなった頃から飛び始め、その後1時間くらいの間、もっとも活発に活動します。風のない蒸し暑い日に活発に活動し、風の強い日や肌寒い日にはあまり飛びません。よほどの土砂降りでない限り、雨の日でも活動します。

### ホタルは兵庫県に10種類

日本には50種近く、兵庫県には10種のホタルが記録されています。10種のうち、成虫が夜行性で発光するのは3種です。しかし、他の7種も、幼虫やさなぎは発光します。ゲンジボタルを観察できたら、つぎは、いろんなホタルや幼虫の観察に挑戦してみましょう。

ホタルの光が  
わかるかな♡

